

# 第23回農業大学校海外農業研修 9月5日～12日



5月パスポートの申請、6月交付、そして事前学習5回(学習テーマの決定、役割分担、研修中の注意や昨年の状況等)を重ねて出発にこぎつけました。



早朝5時20分学校前で出発式を行ないバスで成田空港へ



デルタ航空飛行機に搭乗し、10時間のフライト



あっという間に、サンフランシスコへ少し肌寒いが、好天でゴールデンゲートブリッジも綺麗な姿を見せて歓迎してくれました。



西海岸有数の観光地フィッシャーマンズワープに立ち寄り、昼食、ほとんどの学生はクラムチャウダーを食しました。

## 1 カリフォルニア大学デービス校を舞台に研修

サンフランシスコから北東へバスで2時間、州都サクラメントの西約20kmにデービス校があります。今回で23回目の研修、全体講義と3つのコース(農産・花き、野菜・果樹、酪農・肉畜)に分かれ、5日間の研修プログラムを準備いただき、アメリカ、カリフォルニア農業の一端を学習しました。

### (1) スタッフ職員紹介(写真一部スタッフ紹介)

コーキーさん(8年目)：おなじみ研修全体の統括ボスです。よく学生を捕まえ質問攻めにします。

農業経済学専門、自宅では500エーカーの葡萄園を経営、ハリケーンのカトリン被災支援やアフガニスタン支援までも経験している。趣味はサーモン釣り

ダロリンさん(写真左、2年目)：研修全般に関するマネージャー

ジェシカさん(写真右、今回初参加)、現地研修コース設定や野菜果樹コース案内を務めてくれた大学院生、専攻は灌漑農業の研究、先ごろ6週間エジプトへ行って活動してきた。

シェリーさん：研修スタッフ2年目の大学院生、農産・花きコースに同乗して案内していただいた。

中川圭子さん：この研修で通訳10年以上、東京出身、実際米国では農場主で和牛、の畜産業を営んでいる。

クラツァー三恵子さん(写真サングラス)：6年担当、静岡県出身、果樹・野菜コースの案内、通訳を担当していただいた。



優秀で積極的なスタッフのお陰で有意義な研修をさせていただきました。

農業だけでなく、アメリカの文化や暮らし色んなアドバイスもいただきました。

但し、注意事項として：脱水症状を起こしやすいので気をつけて欲しいこと。湿度が無い日陰は過ごしやすく知らない間に脱水してしまう。水分、塩分をとること。帽子とサングラスは必須です。正にそのとおりでした。



コーキーさんに捕まった学生、通訳の中川さん



階段教室で熱心に講義を聴取、メモをとる

(2) デービス校の概要、カリフォルニアの農業について：コーキーさんより紹介

- ・学生数は 5500名
- 大学院生 930名
- 教授・先生 345名
- 専門家集団、普及職員も多数います。
- ・米国のエンゲル係数8% 世界一 トマト生産2500万トンも世界一

**カリフォルニア農業の特色**

これは、是非覚えてこれから出かける現場研修で確認し参考にして欲しいと指導を受けました。

- 1 イリゲーション：灌漑農業
- 2 多様性：400種もの作物を生産
- 3 高価格品目の生産：野菜、ナッツ類を積極的に生産販売
- 4 土地が高価格：人口が増加して農地が高騰していること。
- 5 総合的なマーケット：市場、消費者に立脚した生産、販売

カリフォルニアでは農業生産の28%を輸出しています。  
 いわゆる地産地消も増加している。有機農業も同様に増加しています。  
 そしてコーキーさんから

ニッチマーケット (niche：隙間) の取り組みを是非学んで欲しいということを提案されました。  
 小中規模農業の中で、的を絞った取り組みを行なっています。

コーキーさんは演台に学生を取り込み、質問したり意見を述べたりして学生にとっては緊張する講義でした。



(3) キャンパス見学ツアー

広いキャンパスの一部を歩いて紹介 ブックストア、メモリアルホール前で集合写真を撮りました。



(4) 3コース A(農産・花き)、B(野菜・果樹)、C(酪農・肉畜)に分かれて現地研修  
写真で研修の一部紹介します。

**A(農産・花き)コース**



巨大なコンバイン、機械を視察、予想はしていたけどアメリカの大きさを実感



農業研究センターで水稻栽培講義



広い一枚水田を散策



花き卸売会社を見学、個人用の販売は行っていない。



デービス校内の花き園芸施設

**B(野菜・果樹)コース**



苗木生産専門業者で多種多様の果樹の苗木を紹介されました。



標高800mでリンゴなど果樹栽培、糖度21のふじを自慢していました。



産地直売所にも立ち寄りました。雰囲気は日本と同様でした。



150haで果樹、野菜、採卵鶏などの有機栽培農家



大型トラックでスーパー等への配送、中卸業者レイリー



果樹・野菜の中卸業者、輸出もし。人間関係、信頼関係を大事にしていました。

### C (酪農・肉畜) コース



巨大なメタンガス発酵層で足元がふらつきました。



粉碎されたトウモロコシを巨大ブルドーザで踏み込みサイレージ化



州都サクラメント議事堂前で集合写真を撮りました。



巨大なフィードロッド牛舎、雨が降らないので屋根が無く柵のみです。



アンガスより発育良好なブラウンスイスの種雄牛

### (5) 学生生活状況について

- ・ 宿泊した学生寮は、広いキャンパスの中でも食堂は近く、立地条件は良好でした。
- ・ また食堂は広く、色んなメニューがあちこちで用意され、自由に選択して学生は満足していました。各種ソフトドリンクやアイス、果物類は食べ放題でした。



宿泊寮から5分程度、食堂入り口に入り、予め渡されていたカードを受付でチェックし、後は好みのメニューを選択、調理してもらったり、広々とした中で快適な食生活を味わいました。

- ・毎日日中は快晴で気温が高いのですが、湿度は低く日中の気温と夜の寒暖差が激しく後半、風邪気味となる学生も数人いました。



左が女子宿泊寮、右が男子宿泊寮、2人部屋、シャワー室、洗濯機、談話室がありました。寮の前の集会場所で、現地研修前に早朝ミーティングを行いました。



隣の寮の学生とスナップ  
この内の2人に当農大生3名の迷子捜索で助けられました。

- ・寮から徒歩で10分ほどにプールやボウリング場がありました。現地研修終了後、時間があれば出かける学生もありました。
- ・水曜日には、徒歩15分ほどの学校外の敷地でファーマーズマーケットが開催されていました。多くの学生が見学に向かいました。



プールでひと泳ぎ  
ファーマーズマーケット  
マンボコンサート演奏もあり  
沢山の人で賑わっていました。



(6) 最終日の夜にBBQパーティーがありました。

- ・コーキーさんから挨拶があり、23年間の国際交流を高く評価してくれました。また地震、津波の東日本大震災についてお見舞いと励ましの言葉もありました。
- ・ゲストとして日系2世の北山さんが招かれ、戦争時代の苦労や日系人の活躍についてメッセージをいただきました。
- ・当農業大学校からは、23年間で994名学生がお世話になったこと、この研修の成果を活かしていきたいこと、また来年も是非本研修をお願いしたいことについて、引率者、学生代表から御礼のスピーチを行いました。



コーキーさんからスピーチ



学生代表の感謝スピーチ

(7) 最終日オプションコース等

- ・ 3つのオプションツアー等、学生はそれぞれ買い物や観光に満足したようです。



サンフランシスコ市内



ベイブリッジ(数年後に新しくなるようです)



アルカトラズ島



最後の夕食で、添乗員の計らいで9月誕生日のお祝いをしてサプライズ状態でした。



ジャパントウン内にホテルがあり周辺には、五重塔など日本調の建物、店がありました。



帰りの飛行機では、座席の前で映画鑑賞できました。

最後に米国印象語録

- ・ 後半に入って、食事、味が単調気味で日本食の良さを感じました。
- ・ ほとんど雨が降らない晴天なので、種を播いて80日後野菜がとれる計算が成り立つカリフォルニア農業。
- ・ 荒涼とした高原、冬は緑に変身する。
- ・ 有機農業が普及拡大していました。
- ・ トイレウォシュレット、湯船が懐かしい。
- ・ 日本人だからといって区別がない。さすが多国籍のアメリカです。
- ・ お店ではドルのお札を透かしてよくチェックされました。
- ・ 乾燥地、強烈な日射しにコーラ、ジュース、ビールは最高、日傘をさしている人無し。日陰涼しい。
- ・ 10年目の9.11 帰国時の朝4件のテロ未遂報道、サンフ空港は搭乗者が少なくスムーズでした。
- ・ ガソリンリッター60円~70円 車社会 右側通行でした。
- ・ ブレーキパッドが壊れやすい坂の街サンフランシスコ
- ・ バス座席にネットやペットボトル受けが無い。日本人の繊細さを感じる。
- ・ UCD校の学費は年3万ドル、高校までは義務教育だそうです。